

GAKUIN CAMPUS LETTER

学院キャンパスだより 12

Contents

光星学院高校春の甲子園大会出場決定!

八戸大学

来年度の就職戦線は?

八戸大学

国際ソロプチミスト八戸ユースフォーラム

八戸短期大学

平成20年度保育者養成懇談会開催

光星学院高校専攻科

救急救急員養成講習会開催

光星学院高校

就職決定率100%へ向けての取り組み

野辺地西高校

植林事業に参加しました～青森県の植林はスギからヒバへ～



光星学院高校春の甲子園大会出場決定！



1月23日(金)、日本高校野球連盟から「春の甲子園出場決定」の連絡が入り、光星学院高校の3年ぶり4度目となる第81回選抜高校野球大会への出場が決定した。

秋の東北大会で優勝してから、約3ヶ月、この日光星学院高校には、テレビ局や新聞社など多くの報道陣が詰めかけた。東北大会を安定した力で制したこともあり、報道陣の対応をしていた先生方や高野連からの連絡を待つ職員も終始リラックスしていたが、午後3時が近づくにつれ、徐々に緊張感が漂い、辺りは言葉を発してはならない雰囲気の中で静寂の中に包まれた。



午後3時10分過ぎ、日本高校野球連盟より電話連絡が入り、校長室で待機していた山西幸子校長へ取り次がれた。

テレビカメラやたくさんの報道陣に囲まれる中、山西幸子校長は、やや緊張しながらも冷静に日本高校野球連盟からの春の選抜甲子園出場決定の電話連絡を受けて「お受けいたします。ありがとうございます。」と答えた。

光星学院高校が、今年の春の選抜大会出場が決まった瞬間である。

山西校長は、すぐさまスチューデントプラザ(中庭)に向かい、そこに集合した野球部員の前で春の甲子園大会に出場が決定したことを報告。



「甲子園出場決定」という知らせを受けた野球部員たちは、山西校長に一礼をしたあと、たくさんの報道陣と、校舎内から見守っていた先生や生徒たちの拍手の中、歓声を上げながら、下沖勇樹主将を胴上げし、喜びをわかちあった。



その後、報道陣のインタビューに応えた下沖勇樹主将と金澤成奉監督は、共に「まずは、初戦突破を目指す」と意気込みを語った。



過去3度の出場は、いずれも緒戦で敗退しているだけに、今度の大会での初戦突破という意気込みが強く感じられた。

その日の夕方、青森朝日放送の夕方のニュース番組に生出演した野球部員の表情は、甲子園出場という喜びに終始にこやかで明るく自信に満ち溢れた表情であった。

その表情を見ていると、金澤監督が「今回の大会は、全国のチームの力が拮抗しているので、優勝のチャンスはある。守りを中心とした野球で戦っていきいたい」というように、今年のチームは、秋の青森県大会、そして東北大会で見たような投手力を中心に守り勝つチームで他を寄せ付けぬ試合を展開してきた。春の甲子園大会では、「東北初の…」という新聞の見出しが期待できる。



光星学院主催第2回野球教室開催

学校法人光星学院主催の野球教室が昨年に引き続き、12月13日(土)、八戸市屋内トレーニングセンターで行われた。

第2回目となった今回の野球教室も、光星学院高校、八戸大学出身のプロ野球選手、社会人選手の合わせて9名が集い、八戸市内の小中学生約180人に第一線で培った技術と野球の楽しさを伝えた。

この日講師を務めたのは、読売ジャイアンツの坂本勇人選手(光星学院高出)、三木均選手(八戸大学出)、横浜ベイスターズの内藤雄太選手(八戸大学出)、

楽天イーグルスの松崎伸吾選手(光星学院出) 青山浩二選手(八戸大学出)、石川賢選手(八戸大学出)、また社会人野球の七十七銀行の野里明人選手(光星学院高出、八戸大学出) 宇都伊織選手(八戸大学出)、ホンダ鈴鹿の中原久選手(八戸大学出)の9人で、打撃、守備、ピッチングの3部門に分かれてそれぞれ指導が行われた。

打撃の指導では、坂本選手らがスイングを実演しながら自ら打撃投手も勤めて、親切丁寧に指導し、守備では、守備の姿



勢や打球の処理の仕方、ピッチングではボールの握り方やフォームなどが指導され参加した小中学生達は、熱心に聞き入っていた。

教室終了後は、各プロ野球選手の直筆サイン入りのバットや帽子、リストバンドが当たる抽選会が行われ、子供たちは抽選番号の背番号が読み上げられるたびに一喜一憂し、最後は記念撮影をし、プロ選手との交流を楽しんでいた。



高大連携事業 携帯電話講習会開催



高大連携事業連絡協議会での審議を経て、本法人内初となる携帯電話講習会が12月8日(月)野辺地西高等学校で開催された。この講習会は、八戸短期大学ライフデザイン学科講師馬場祥次先生の指導のもとゼミ生が企画実施したもので、この日は馬場先生とゼミ学生の岩浪由香さん(八戸東高出)、大館真希子さん(三本木高出)、大久保優希さん(八戸西高

出)の3名が講師として野辺地西高校1年生全員を対象に講習会を行った。

携帯電話の使用に際し様々な機能やトラブル防止について、ゼミ学生が主導でクイズ形式に実施し、それに高校生が参画する形で行なわれた。高校生にとってはそれが新鮮で最後まで楽しみながら、知識を深めていたようだ。このように学生が地域のために活動するという事例は珍しくないが、高校生が大学生から何かを得る機会は極めて希少であり、企画内容によっては群を抜く教育支援が埋もれているかも知れない。

高大連携事業連絡協議会では、大学、短大、高等学校などの相互理解

と教育支援を柱に各種取組んでおり、今般の携帯電話講習会は光星学院イノベーションプログラム(教育改革)の実践としても列挙できる活動である。この他にも、茂木典子准教授(八戸短期大学幼児保育学科)による授業実施や光星学院高等学校教職員研修会なども実施し、本法人内の資源を最大限に生かす施策も展開している。



「第1回みんなで読み聞かせ」の開催について

八戸大学・八戸短期大学図書館では、授業支援および図書館と授業(教員)連携の一環として、様々な取り組みを行っている。短期大学においては、数年前から「言葉」の授業や保育・幼稚園実習事前指導で、司書による「読み聞かせ」の特別講義等が実施されている。本年度は、茂木典子先生が担当する言葉Ⅱ(2年次配当)の授業において図書館主催の『第1回みんなで読み聞かせ』が12月11日(木)の1~2時限目に開催された。

旧短大図書館だった学生ホールに面しているカーペット敷きの小部屋を発表会

場とし、履修者全員による絵本の読み聞かせが行われた。学生たちは、課題絵本の「おしゃべりさん/さいとうしのぶ作」と「もういっかい おしゃべりさん/さいとうしのぶ作」の中から各々好きなお話を選び、一人ひとりが読み聞かせを熟演していた。

図書館副館長の佐藤愛子先生やフリー・アナウンサーとして読み聞かせや朗読をされているライフデザイン学科の三浦文恵先生と図書館司書も審査に加わり、全員の読み聞かせが終わった後、それぞれ講評が述べられた。学生たちの読み聞

かせは、感情表現豊かでどれもそれぞれに上手で、あとは絵本の持ち方や聞き手への目配りができるようになれば、ほぼ完璧といってい程の出来ばえだった。

「最優秀賞」3名、「優秀賞」4名が選ばれ、その他の学生は「努力賞」として、副館長より賞状が授与された。最優秀者には賞品として課題絵本の「おしゃべりさん」が贈呈された。

幼児保育学科では、星の子音楽会、オペレッタや児童劇、吹奏楽やハンドベルの演奏会や発表会が盛んに行われている。今回の『みんなで読み聞かせ』を契機に、「読み聞かせ」の発表会も、幼児保育学科の定期的な催しとして定着してほしいと思う。

今後の就職活動が見えた「就職合宿」！

11月15日(土)、16日(日)に1泊2日の日程で大学・短大の合同による就職合宿を、就職活動を間近に控えた3年生(短大1年生)を対象に三沢市の古牧温泉青森屋で実施した。近年は八戸市内のホテルを中心に合宿を行っていたが、今年度は気分一新のために場所も変更した。参加者は大学生72名、短大生12名の84名で、最近では一番多い参加者であった。

就職合宿は今年で14回目、講師は昨年同様「ジョブカフェあおもり」のキャリアカウンセラー7名を迎え、それぞれ12

名～13名の少人数の7グループを編成。開会式で人間健康学部深澤伸幸就職委員長の激励や学生代表の決意表明などを行い早速開始。1日目は22時近くまで、2日目は12時までグループごとに、本番さながらの面接指導(個人、グループ、ロールプレイングなど)、エントリーシートや履歴書の書き方などの実践指導をそれぞれみっちり、厳しく、丁寧な指導を受けた。また、今回は事前に実施していた適性検査のきめ細かい分析など盛りだくさんの内容で、学生たちはこれから迎え



る就職活動を前に気を引き締めて臨んでいた。また、第1日目終了後それぞれの部屋で実施項目の確認や第2日目早朝開始前に講師から指導を受ける学生の真剣な態度に感心させられた。就職合宿に参加した学生の内定率が毎年ほぼ100%も頷ける光景であった。終了後、閉会式での講師の講評や学生代表の御礼の言葉でもその満足感を窺うことができた。なお、学生たちは「疲れたがこれからの就職活動に参考になることが多かった」、「今までの不安を解消できた」など、参加して良かったという感想が多かった。

来年度の就職戦線は景気悪化から買手市場が予想され一層厳しさを増す状況であるが、この経験を活かして乗り越えてほしいと願っているところである。



内定取ったよ！

11月6日に内定を勝ち取った学生及び採用した企業の人事担当者を招き、3年生対象の就職ガイダンスで「内定者報告会」を行った。この「内定者報告会」は、4年生の就職活動の経験を、これから間近に控えた3年生に発表し、自己のモチベーションを高めてもらうため毎年実施しているイベントの一つである。

今年度は人間健康学部の1回生が卒業の年でもありその動向が大変注目されている。そんな中で見事「ヤフーバリューインサイト株式会社」に内定を頂いた百目木かおりさん(八戸北高出)、南山洋子さん(八戸商業高出)、そして「みちのく銀行」に内定したビジネス学部の中西周平君(川内高出)をゲストに招き、それぞれの就職活動の内容、苦労話、他大学の学生の姿、また内定した企業の魅力などについて採用担当者を前にして語ってもらった。三者三様の発表の中、

人間健康学部の百目木さんからは、日常の中でいろんなことにチャレンジし自分自身を高めてほしい、「自己分析」や「業界研究」をしっかりと行うことが大切。それには就職ガイダンス、就職合宿や合同企業研究会に積極的に参加することが大事だと後輩にアドバイスを送っていた。

また、採用担当者からは「求める人材」、「採用の理由そして期待」など、裏話を交えて披露された。更に、それぞれにチャレンジする会社の業務内容などをしっかりと把握した上で、自分に何が出来るか、何がしたいのか明確に伝えてほしい、そうでなければ採用担当者の心を掴めないというアドバイスがあった。就職活動を間近に控えた3年生にとって、採用基準などはとても参考に

なったことと思う。なお、報告会はディスカッション形式で進められた。

就職戦線が「売手市場から買手市場」に激変したこの時期、就職活動が今年度以上に厳しさを増す様相の中、先輩から後輩に送った熱いエールの「内定者報告会」であった。



12月4日(木)に大学3年生、短大1年生を対象に就職活動の第一歩である大学・短大合同企業研究会を、八戸プラザホテルアーバンホールに、68社の企業の方々の参加をいただき開催した。

この合同企業研究会は大学、短大とそれぞれ4月から実施している就職ガイダンスの締めくくりとなるもので、学生たちが直接、企業の人事担当者と面談できる場であり、尚且つ就職先を決定する際の大きな要因の一つになっているイベントである。参加企業は、学生たちのアンケートを参考にしながら依頼した企業、



来年度の就職戦線は？

県内29社、県外39社。当日は、百数十名の学生が会場に足を運んだ。学生たちは最初、緊張感からくる戸惑いなどが見受けられたが、就職ガイダンスや就職合宿での経験を活かし興味・関心のある企業のブースを積極的に訪問し、「来年度の採用状況」、「求める人材」、「事業内容」、などについて、人事担当者の説明に熱心に耳を傾けていた。終了後、人事担当者からは「例年になく積極的な学生が多い」「真剣に説明を聞いてくれた」「真面目で非常に礼儀正しく好感が持てた」という感想が多く聞かれた。一方、学生たちからは「希望する会社の話を聞けてよかった」、「目指す会社が理解できた」、「求める人材がわかった」などと、間近に迫った就職戦線に意欲をにじませ



る感想が多かった。

就職支援担当者としては厳しさが予想される中、希望する会社に一人でも多くの学生たちが内定出来るよう、あらゆる面でのサポートを考えているところである。



今年度は、新校舎（実習館）が完成したこともあり、八戸短期大学の協力も得て昨年と趣向を変えた企画となった。短期大学ウィンドアンサンブルによるクリスマスコンサートに始まり、実習館前のイルミネーション点灯式、実習館エン

みほのクリスマスイベント

トランスホールでのクリスマスパーティーでは、大学の軽音学部や短期大学ウィンドアンサンブルによる演奏、シークレットプレゼントゲームなど催し物が盛り沢山で、小さな子供から大人まで共に楽しめる時間となった。準備から終わりまで振り返ると、小さなイベントを開催するのにも様々な苦労や、沢山の人の手が必要であり、それには仲間との協力や連携が大切だと気付くことが出来た。また、お忙しいなか作業を手伝っていただいた職員の皆さん

に感謝し、これからも学友会が発展するよう学友会メンバー一丸となって頑張りたい。



ボウリング大会

12月19日、ボウリング大会が行われた。このボウリング大会は長年続けられてきた企画で、私たち学友会のメンバーに



とって恒例の行事である。

学生は勿論のこと教職員の方々にも参加いただき、学部・学年の域を超えて盛り上がりを見せ大成功に終わった。

今後は、クリスマスイベントのように短期大学とも交流できれば更に盛り上がった大会になるのではないかと検討中である。

まだまだ、私達2年生は先輩方の教えをうまく実行出来ていないかもしれないが、改善すべきところ、継続すべきところ



ろを学友会メンバー全員で話し合い、よりよい運営、大会に参加して下さった学生の皆さんに貢献できればと考えている。

特 別 講 義



平成20年12月5日(金)八戸大学人間健康学部「人間環境論(2年次)」の講義で、講師に弘前学院大学 吉岡利忠学長をお招きし、特別講義が行われました。テーマは「筋肉と環境」で、将来、ヒトが宇

宙で生活する上での無重力環境における生体影響を生理学的な分野からアプローチした内容であった。無重力環境下での循環系への影響は、血液が下肢から頭部に集まることにより顔がむくむムーンフェイス、骨格筋系では運動量の低下による筋繊維萎縮と筋力低下が生じる。運動量に低下に伴う筋繊維の萎縮は体内からカルシウム排泄の増加を引き起こし、骨質の減少を生じる。これらを予防には十分な水分補給や適度な運動などの対策を講じられている。最近の研究では、筋線

維の萎縮の防止対策として、筋肉へ温熱ストレスを与えることにより筋繊維の肥大が起こり、筋力低下を予防できていることが明らかになっている。無重量環境下でヒトが生活するに課題に対する今日の取り組みを学生たちは興味深く拝聴した。



第30回 国際ソロプチミスト八戸ユースフォーラム

12月16日に第30回国際ソロプチミスト八戸ユースフォーラムが開催された。本学からはビジネス学部生1名・人間健康学部生3名の計4名がファシリテータとして参加し、八戸市及び近隣の高校生10数名のパネラーと共に今回のテーマである「地球温暖化と私たちの未来」について熱く語り合った。フォーラム開催に先



立ち、内海隆八戸短期大学学長補佐が「地球の生命(いのち)」と題して30分程度基調講演を行った。その後のディスカッションでは学生達が、なれないファシリテーターとしての仕事に最初は戸惑いながらも、高校生達が思い思いに自分の意見を話すようになると、次第にマイクを片手に高校生達をリードしていくようになった。

学生達は地球温暖化について見識を広めたことはもちろんのこと、その事以上に、人前で自分の意見を話す、他者の意見を引き出す等普段の講義では学びきれない貴重な経験をした事であろう。閉会後の学生達の言葉が印象的で、



またこういった機会を設けて欲しいとリクエストがあった。自ら進んで「行動する」というやる気が芽生えた事がこのフォーラム参加への一番の収穫ではなかろうか。



総合研究所と青森県の共催による「あおりツーリズム人づくり大学 はやて2008『08八戸観光大学』」が11月26日か

八戸観光大学開講

ら2月18日まで行われている。今年度も古牧温泉青森屋の佐藤大介総支配人をメイン講師に迎え、八戸市内の企業の経営者や経営幹部37名が受講。マーケットの変化に合わせた商品作りについて、古牧温泉の事例やインターネット通販での成功事例等を学んでいる。

12月4日の講座では、新幹線の車内販売で通常の3~7倍の売り上げを達成し

ているNRE(日本レストランエンタプライズ)のチーフインストラクター茂木久美子さんが講演、茂木さんは「天候や列車の時間帯によって商品の仕入れやワゴンに乗せる商品を換えている。またお客様の様子や雰囲気の逃すことなく商品を提供、例えばコーヒーを販売する場合「いれたての～」と一言添えるだけで購入するお客様が増えるので心配りや気配りを忘れることなく、常にお客様の視点に立って販売している」と説明した。

新しい地域づくりを考えるシンポジウム開催

総合研究所主催による「新しい地域づくりを考えるシンポジウム」が11月22日、



八戸市内のホテルで開催された。基調講演では「新たな広域連携に向けて—三圏域（八戸・久慈・二戸）連携、八戸と三陸振興」と題し、元岩手県地域振興部長で三陸鉄道(株)の山口和彦社長が講演。三陸活性化における三陸鉄道の役割や八戸と久慈地域の連携について講演した。

シンポジウムは、行政や民間での三圏域交流が活発化し、三圏域連携をテーマに岩手県知事と八戸市長が対談したことを受け、研究所が企画したもので、行政や地域団体関係者など約80名が参加した。



講演終了後、青森・岩手両県で地域づくりに携わっている4人によるトークセッションが行われ、「全国に地域を売り込むには自治体個々の取り組みから北東北、あるいは東北全体といった広域の枠組みでPRすべきだ」といった意見が出された。

「八戸大学」OB&OG訪問 part12



コニカミノルタビジネスソリューションズ
東北支店直販営業部
高橋 一孝さん

プロフィール

盛岡工業高校—八戸大卒。仙台市内の民間企業勤務を経て一昨年転職。学生時代はサッカー愛好会・軟式テニス同好会に所属した。

Q：学生時代の思い出を教えてください。

A：サッカー（愛好会でしたが市のリーグに所属）とバイトに明け暮れ、また学友会のお手伝いもしました。大学に入って初めてパソコンにさわり面白いと思い、情報関連企業に就職しました。

Q：営業の仕事をしているとのことでしたが、心がけていることとか教えてください。

A：転職して1年が過ぎ、飛び込みでの営業も多く、何回も通ってようやく会ってくれる。前の会社にいたときはルートセールスだったので、契約を取っても実感がなかったのですが、現在はやりがいがあり楽しい。転職してよかったと思っています。どうやったら自分自身を覚えてもらえるか、うまく自己アピールをす

るためにはどうしたらよいか日々考えています。

Q：就職で初めて仙台に来たわけですが、見知らぬ街での苦労話などありますか？

A：自分自身、大きいことをやりたいと思い仙台にきました。今でも東京にあこがれている。都会でつらいこともあるが良いこともあります。思い切って新しい街に出てきてよかったと思っています。仙台に来て、転職も経験し自分自身も変わりました。

Q：最後に在学生にメッセージをどうぞ

A：就職して間もない頃は、大学でもっと遊んでおけばよかったと思ったときもありました。今は仕事楽しくて休みの時も仕事したいと思っています。在学生の皆さんには、4年間で本当にやりたいことを見つけて欲しいと思っています。

ほっ

と
たいむ

その日も、仙台駅は足早に行きかう人達であふれていた。久しぶりの喧噪を心地よく感じながら、待合室の椅子に腰掛けてボーッとしていた。と、隣に黒いスーツ姿の若い女性が座った。

仕事の途中らしい。若々しいエネルギーと、凜とした清々しさが匂い立つ。振り向きたい思いを、ぐっと押さえた。上司への報告だろうが携帯に向かう声が聞こえてきた。「…はい、担当の方とお会いして予定の打合せを終えましたので社に戻ります。企画は…」

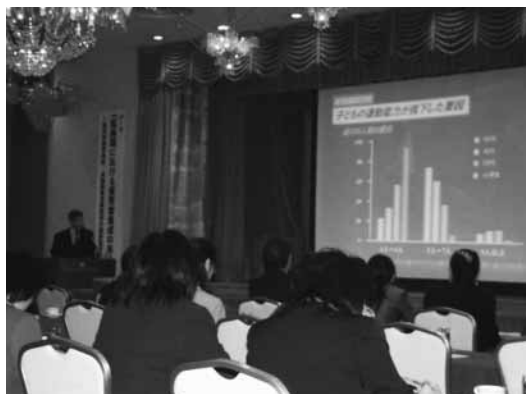
「和貴子！」思わず立ち上がって叫んでしまった。一昨年、八戸大学を巣立って

いった卒業生ではないか。教育関係の企画や出版などを広く手掛ける東京の企業で活躍していると聞いてはいたが、仙台駅で会うとは。

新幹線を待つ数分間だけの出会いだったが、まぶしく輝く彼女は頼もしく、嬉しかった。（も）



平成20年度 保育者養成懇談会を開催



平成20年11月27日(木)、八戸プラザホテルにて、平成20年度八戸短期大学保育者養成懇談会(幼児保育学科主催)が開催された。この保育者養成懇談会は、幼児保育学科が日頃からお世話になっている三八・上十三・むつ地区および岩手県北の実習施設関係者を対象に、本学が持つ知的財産の提供や教員の研究報告等を

行い、養成校と実習施設の協同を図っている。

今年度の保育者養成懇談会では、シンポジウムを取り入れ「転換期における保育者養成の有りよう～保育所保育指針、幼稚園教育要領等の政策変更を受けて～」をテーマに行った。内海隆学長補佐の開会挨拶の後、幼児保育学科三島隆章講師による「八戸市の子どもの運動能力」の研究報告と同学科上村裕樹准教授よりシンポジウムに向けての話題提供が行われた。シンポジストにイメルダ幼稚園藤村重實園長、知的障害者更生施設妙光園分枝勝則園長、長坂保育園川口司園長、同学科坂本玲子教授を招き、コーディネーターを同学科上村裕樹准教授が務めた。保育所保育指針や幼稚園教育要領、障害者自立支援法などの法制度改変や各実習施設の現況、

そして、養成校の役割等、参加者はシンポジストの貴重な意見に耳を傾けていた。



平成20年度 父母の会を開催

平成20年10月26日(日)に八戸プラザホテルにおいて、平成20年度父母の会(八戸短期大学父母の会主催)が開催され、46名の父母が参加した。

学長挨拶、石川清人新会長からの挨拶を皮切りに会が進行された。報告事項では、各学科長から取組や活動状況等が報告された。報告の中では、八戸短大生が「八戸小唄流し踊り」に幼児保育学科1

年生とライフデザイン学科1年生約130人が参加し、祭りに新たな彩りを添えたことを報告された。各委員会(教務委員会、学生委員会、就職支援委員会)も取組や状況等の報告が行われ、特に学生委員会から「アルバイト実態調査」に関する説明と父母に対してのお願い、就職支援委員会から「就職活動」に関する就職支援計画(就職ガイダンス)の取組みに

ついてや夏期資格講座の結果報告など、参加者は熱心に耳を傾けていた。

個人面談では、ゼミ担当者の教員が前期までの成績や学生生活の状況、ゼミ活動の様子などを父母に説明。普段知ることができない短期大学での様子を知った父母は、満足した様子であり、有意義な時間となったようである。

父母の会事務局では、年1回の主催となるため、もっと多くの父母が参加していただけるよう内容を充実していきたいとしている。

光星学院「星の子音楽会」に幼児保育学科の学生が出演



平成20年11月12日(木)に八戸市公会堂において、第28回光星学院『星の子音楽会』が盛大に開催され、八戸短期大学の幼児保育学科約200名の学生が参加した。昨年度は、リトミック表現「不思議の森」や合唱(ハレルヤ)などを行ったが、今年度はウィンドアンサンブルによる演奏と幼児保育学科全学生による合唱を披露した。学生たちは、この日のために附田勢津子教授

を始めとする音楽科の先生方から、音楽指導の時間で指導を受け、発声練習やパート毎の練習を積み重ねてきた。

音楽会を始めるにあたり、ウィンドアンサンブルの演奏に合わせて園児たちが入場し、音楽会が始まった。この日の会場は、多くの保護者が来場しており、園児たちの歌声に耳を傾けていた。音楽会の最後に幼児保育学科全員による「ハレルヤ」が披露され、スーツ姿に身を包んだ学生たちは、緊張しながらも精一杯の「ハレルヤ」を歌っていた。

平成20年12月11日(木)にライフデザイン学科1年の講義「旅行業法」「旅行実務



I」を使い、三八五バスの施設見学が行われた。この講義では、三八五観光株式会社小林一光氏が非常勤講師として担当している科目であり、社団法人全国旅行業協会「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格を目指し、標準旅行約款を中心に学習をしている。

三八五バス株式会社ガイド指導課長丹波さな氏から会社説明と模擬授業を受けさせていただいた。丹波氏は、新人バスガイドの指導を行っており、有能なバスガイド

を育てている。この日はその研修の一部を行っていただいた。バスガイドの心得(一期一会)、接客の基本(マナー)、身だしなみや言葉遣いなど。特に気を付けていることは、接客の基本。挨拶は音符の「ソ」の音ですることが基本。相手にも気持ちが伝わるという。この他にも情報伝達や感情伝達、バスガイドとして、してはいけないことなど。バスガイドだけではなく、身近な生活の中でも活用できることを学生たちは学んだ。

平成20年11月15日(土)・16日(日)、1泊2日の日程で就職合宿が開催された。平成22年3月卒業予定の学生を対象としており、八戸大学との合同で開催し、今年で14回目の実施となるこの合宿は、本学の就職支援行事の中でも主軸になっており、この就職合宿の成果が毎年高い内定率につながっている。



今年度は、三沢市にある古牧温泉で行われ、講師には青森県若年者就職支援センタージョブカフェあおもりの7名をお招きし、本学からライフデザイン学科1年生の学生12名が参加した。限られた時



間の中で行われるこの合宿では、1日目に就職活動の全体像として自己分析、エントリーシートの書き方、履歴書の書き方、経験の整理(学生生活の振り返り)、



長所・短所の確認など、書類上での記入の仕方やまとめ方の指導を受けた。2日目では、1日目の振り返りをした後、面接について基礎知識を学んだ。面接トレーニングでは、1分間の自己PR、グループディスカッション、面接ロールプレイング(面接マナー、個人面接、集団面接)を行い2日間の日程を終了した。

合同企業研修会

平成20年6月6日(金)と12月4日(木)に八戸大学と合同の平成20年度合同企業研究会が開催された。この合同企業研究会は、6月の合同企業研究会ではライフデザイン学科2年生を対象に開催され、12月にはライフデザイン学科1年生を対象に八戸プラザホテルにて開催された。

6月に開催された企業研究会では、学

生は20名が参加。スーツ姿で緊張していた学生を就職支援課のスタッフがアドバイスをし、緊張を解していた一面も見られた。企業も各業界から28社が参加。学生たちは、時間の許す限り多くの企業ブースに足を運び、各企業の説明を受けていた。



12月に開催された企業研究会では、24名の学生が参加した。1年生の企業研究会は、業界研究の一環とし



で行っている。参加企業は35社。県内外から多くの人事担当者に参加していただき、学生たちは積極的に企業ブースを回っていた。

以前は年1回開催の企業研究会を2回に増やし、学生たちが企業と触れる機会が増えたことにより、企業研究や就職活動に対する積極性が生まれている。

救急法救急員養成講習会開催



12月13、14、20、21日の4日間、介護福祉科2年生23名を対象に、日本赤十字社救急法救急員養成講習会が開催された。学生達は、救急法について正しい知識・技術を身につけ、救急救命を必要とする場に遭遇したとき、自ら進んで行動できるように4日間真剣に取り組んだ。

講習では、心肺蘇生法、AEDの使用法、止血の仕方、包帯の使い方、骨折の手当等についての講義と実技が行われた。実技では、指導員の方々から、緊急時に慌てず正確に対処するためにはどうすれば良いか、学生個々に合わせ一つ一つ丁寧に、ポイントを押さえた指導をしていただいた。特に三角巾の使用法では、三角巾をうまく扱えずやり方も分からない状態から、

三分間で三つの課題をクリアするまでに上達した。これは、指導員からの助言や励ましと全員が協力し合い、練習を重ねた結果であった。最終日に学科と実技の試験が行われ、23名全員合格することができ、赤十字救急法救急員認定証をいただくことができた。



平成20年度

自動車科 校外実習

平成20年11月10日から21日までの二週間、自動車科1年生27名が、県南地区16社の自動車整備工場（ディーラー12社、民間4社）に分かれ、学校では経験できない自動車整備士の仕事の楽しさや大変さを体験した。校外実習は、実社会における自動車整備業界の役割と人間的なかわりを体験するために、毎年1年生を対象に実施しており、実習受け入れの確認から就業時間等の事前の打ち合わせまで、すべて学生自身が行っている。

今年度は、雪が降ったことでタイヤ交換のお客様が集中し、タイヤの交換作業

の忙しさを体験した学生が多かった。また、整備技術だけではなく、プロとして自覚や責任を持って仕事に取り組む大切さを実感してきた学生も多くいた。

今回の校外実習での経験と反省を、これからの学校生活に活かし、二級整備士合格に一步でも近づくことを期待している。



卒業生だより

平成19年度卒業 長瀬綾子さん



専攻科の皆さんお久しぶりです。平成20年3月に卒業しました長瀬綾子です。

4月に㈱フォーラムエンジニアリングに入社して、現在は静岡県にある某自動車メーカーに出向しています。仕事の内容は、自動車の衝突実験の様々な試験計測を任されています。皆さんもCMなどで目にすることがありますか？作業を一つ間違っただけで、試験すべてがダメになってしまうので、ミスのないよう緊張感をもって仕事に取り組んでいます。

学校の授業で学んだこと以外の知識も

必要になってくるので、先輩の方々から一から教えていただき勉強しています。大変責任重大な仕事ですが、緊張の中にも面白さがあり、やり甲斐を感じています。はじめは不安だった一人暮らしも、意外と快適で楽しんでいます。一人暮らしや仕事をしていく上で、自分が成長していることを実感しています。

最後に、皆さん学生の内に色々なことにチャレンジしてみてください。その中で、自分に出来る新しい発見をし、色々な経験を積んで欲しいと思います。

教 育 講 演 会 開 催 さ れ る

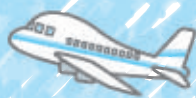
11月15日(土)に本校オープンスペースにおいて、林料理学校より林恭子校長先生を講師として招き、教育講演会が開催されました。「生きる力を育む家庭の食事」をテーマにPTAの方々をはじめ、光星学院高等学校の卒業生、一般の方々70名以上の参加者があり約一時間半に渡って講演されました。2005年食育基本法が制定され、家庭でのしっかりとした食事・



食の常識が急務となり、林先生は「家庭での食事が大切」「親が手を加えた愛情のこもった料理が大切」など食育の重要性を強調するなど、自らの体験を通しての講演に参加者を魅了しました。質疑応答では「今後の食育のあり方」、「食事のマナーのあり方」などの質問に対して大変わかりやすく親切な説明をいただきました。今回の講演を通して参加者から「家庭で家族での食事」「食育＝子育てを改めて実感」「人間形成はまさに食にある」など大変勉強に



なりこれからの子育てに大いに役立てたいとの声が寄せられていました。



信 頼 で 結 ば れ た 修 学 旅 行



移動距離と共に暖かくなる車窓風景。教科書とは全く違った金閣寺。京都駅の



巨大なクリスマスツリー。清水寺の紅葉。心に染みた三十三間堂。絶叫のU S J。離陸時の興奮と雲のジュータン。沖縄の青い海。平和のありがたさと戦争の悲惨さを改めて実感したひめゆりの塔。荘厳な首里城。巨大なジンベイザメ。琉球村で知った沖縄の歴史。人の温かさを感じた国際通り散策。そして首都東京での乗り換えと自主研修。(生徒の作文より)

生徒を信頼することからスタートした修学旅行はすべてが計画通りに進んだ。これも生徒が信頼を信頼という形で返し



てくれた結果であり、二学年職員のご指導の賜である。そして全員が笑顔で無事帰着できたのも関係各位、特に旅行会社のおかげであった。

振り返れば、今まで以上に大きく様変わりした修学旅行ではあったが、すべての旅程に生徒たちの笑顔があった。生徒諸君にはこの経験を糧に、残された高校生活のさらなる飛躍を期待する。



平成21年1月13日現在

	卒業生数	進学			進学計	未定	就職			就職計	未定
		大学	短大	専門学校			県内	県外	自衛隊		
男子	164	39	5	34	78	24	30	19	7	56	5
女子	129	12	18	31	61	15	18	23	0	41	13
計算	293	51	23	65	139	39	48	42	7	97	18

平成20年度の卒業生は293名である。進学希望者178名（全体の60.8%）、就職希望者115名（同39.2%）であった。ここ数年、進学希望者の割合が高くなってきているが、就職希望者数も100名を超え、依然として多い状況である。特に今年度は、「県内就職」、「特定の職種」と条件

を限定しての就職活動をした生徒が多く苦戦が予想されたが、大変健闘し、就職決定率84.3%（1月13日現在）という実績である。主な就職先は次の通りである。

【県内】三菱製紙株式会社八戸工場、八戸燃料株式会社、八戸通運株式会社、株式会社トヨタレンタリース青森、八戸グランドホテル、八戸パークホテル、近隣の介護施設等。【県外】ネットヨタ仙台株式会社、セコム株式会社、三菱重工業株式

会社、東京急行電鉄株式会社。

今年度の進路指導部の新たな取り組みとしてビジネスマナー研修会を実施した。外部講師を招き、お辞儀のマナー、身だしなみ、挨拶、人の話を聞く姿勢等、社会人として必要なマナーの講習を行った。

また、夏休みにはビジネスマナー集中講座として履歴書の書き方の指導、面接練習等を行い、生徒の就職活動に向けての意識を高めることができた。

結果として、多くの高校が県内就職で苦戦している中、本校は県内就職数が県外就職数を上回っていることは、特筆すべきことである。今後もさらなる進路指導の充実を図っていきたい。



トレース技能検定1級4名合格

トレース技能検定2級 建築コース全員合格

建築コースでは平成12年より、トレース技能検定合格を目標に指導しており、当初は3級トレース技能検定、2級トレース技能検定合格を目標に指導してきた。1級トレース技能検定は、平成15年度より取り組み始め、平成17年に初の合格者を出し、昨年は3名の合格者を出すことが出来た。今年度の高校生1級トレース技能検定受験者は青森県で7名で合格者は5名、そのうち本校からは4人が合格

することが出来ました。また今年度はトレース技能検定2級は、念願の全員が合格することが出来た。今回合格した熊野大輔君・川端祐汰君・冷水吉心君の3名は模擬試験でも合格しており、特に熊野君は夏休みもこつこつと練習をし完成度を上げた。川端君は線一本一本に集中し丁寧に書き上げていました。冷水君は模擬試験の悪い点を訂正しながら放課後も残り書き上げた。高橋尚人君は、模擬試

験を未提出の状態から1枚に集中し見事に1枚を書き上げました。これから、多くの生徒に優れた資格を取得させ、社会で活躍出来るように指導をしていきたい。



生徒会編集委員会では、およそ二カ月に一度のペースで、生徒会新聞「一揆一撈」を発行しており、今年度は第5号まで発行した。各部活動の活躍、新校舎の

生徒からの発信

生徒会新聞「一揆一撈」

紹介、生徒の主張や意見文、随筆など内容はその都度異なりますが、生徒からの発信をいつも心がけている。今年度の一例として、新聞にもっと親しんでもらおうというコンセプトのもと、「新聞を読もう」と題し、新聞のコラムに注釈や解説を加え掲載しました。高総体の取材では、弘前市や六戸町、十和田市まで出かけ、自分の目で試合を間近で見て、その感動を文章にしました。当初は、表現し

たい想いはあってもうまく言葉にすることが出来なかったり、自分の記事に自信が持てなかったりと不安を口にする委員も見られました。しかし、発行を重ねるにつれ、新聞を読んだ方々からの励ましの言葉やアドバイスに勇気づけられ、積極的に活動に取り組むようになった。課題はありますが、これからもたくさんの人々に楽しんでもらえるような新聞作りを目指していきたい。

平成20年度は、硬式野球部にとって非常に重要な一年でした。それは、金沢監督が就任以来、三年間の在籍中に一度も甲子園を経験しないで卒業した選手は今までありませんでしたが、夏の甲子園を逃し一度も甲子園を見ることなく引退していく選手を出してしまったことです。甲子園出場を夢に全国から15才で親元を離れ慣れない寮生活を送りながら厳しい練習に耐え抜いてきた選手達には本当に



一年を振り返って 硬式野球部



申し訳ない想いでいっぱいです。努力は必ず結果に結びつくものではありませんが、選手達がやってきたことは必ず実社会で通用するものであると信じています。

三年生には本当にご苦労様と言ってあげたいです。

勝負は不思議なもので、ふと肩から力を抜くと想像以上に力を発揮することがあります。まさに新チームの戦いぶりはそのものでした。

「勝ちに不思議の価値あり、負けに不思議の負けなし」と言われるように今回の勝ちは何



論選手達の頑張りが一番ですが、悔しい思いをした3年生達の積み重ねが大きかったのは事実です。折角掴んだチャンスを今度は1、2年生で花を咲かせ3年生に恩返しをしてもらいたいです。常に『おかげさまで』という謙虚な気持ちを忘れず日々努力し、全国大会にむけ頑張っていきたいと思います。

団体形優勝 空手道部



10月31日(金)～11月2日(日)弘前市の青森県武道館で、平成20年度青森県高等学校



体育連盟空手道専門部秋季大会が開催された。昨年は同大会で3位という成績だったので、今回は優勝を目標に大会に臨んだ。大会初日の団体形予選を1位通過し、2日目の決勝戦では、青森高校、青森北高校、そして本校の3校で優勝を争った。各校が好成績を残す中、最後に登場した本校は、メンバーである笹森悠太選手、宮澤和也選手、磯辺翔平選手が『演武形燕飛』という形を見事に



披露し、他校の点数を上回り、10数年ぶりの優勝を飾った。次の目標は東北選抜大会(山形県天童市)で3位以上に入賞し、全国選抜大会(東京)に出場を目指す。

世界を目指して レスリング部



11月、全国大会出場への第一関門である県下高校レスリング秋季選手権大会が

八戸武道館で行われた。

「新」チームになって選手層が薄くなり、不安があったが、選手たちは自らを奮い立たせ厳しい練習を積み重ねて、最終的には良好な状態で試合に臨むことができた。

その結果、団体戦では全勝で8年連続で優勝することができた。また、個人戦で

は2選手が優勝することができた。

さらに、今季活躍した葉澤謙選手が、日本代表に選出され、年が明けた月に、米国ミシガン州を二週間転戦する。

葉澤謙選手の目標は高く、日本だけでなく世界に名をとどろかせる選手を目指す。

春の全国大会に向けて

ソフトテニス部



10月、福島県郡山市において、各県の予選を勝ち抜いた16校が集まり、第25回



東北私学大会が開かれ、3月に行なわれる全国大会への出場権をかけ厳しい戦いが行なわれた。この大会は私学だけが参加する大会で、全国・東北大会等で私学が上位を独占しているため「私学を制する者が全国を制する」と言われている。その意味でも、全国選抜・インターハイに向けての前哨戦ともいえる大事な大会であり、緊張感を漂わせて臨

んだ大会であった。

新チームになって挑んだ青森県大会新人戦で、昨年の経験者が残ったものの選手層が薄く、戦力的に心配されたが、団体、個人とも優勝することができ、青森県第一代表となった。

大会では、昨年の戦績から第1シードと比較的に組み合わせにも恵まれ、予選を通過。そして、4校総当りの決勝リーグでは、いつも対戦する同じ顔ぶれとなり激しい戦いを繰り広げた。結果は、2勝1敗と惜しくも準優勝に留まったが、全国大会への出場権を獲得することができた。

全国大会に出場する機会を得たことにより目標を日本一とし、そのための努力をして「夢実現」のために選抜大会では旋風を起こしたい。

部員達は県新人戦において、厳しい夏合宿の成果を発揮し、男子800Mで畑中勇樹選手が、ここ数年他校の留学生によって阻まれていた県優勝を果たした。畑中選手らの活躍もあって男子はトラック部門において第3位の成績を納めた。また、長距離は全種目にフルエントリーし全員入賞を達成した。中でも、3000M S Cで磯崎大智選手が3位、5000Mはエースの蛭名聡勝選手が3位、大下稔樹選手が4位、角洋治選手が5位と続いた。女子も奮闘し、田中美聡選手、秋山真嬉選手、松山莉々華選手、吉田夏美選手らが実力以上の頑張りをを見せて入賞を果たした。

宮城県利府市で行われた東北高校新人戦には、本校は選手12名で臨み、覚醒とも言える活躍で、男子1500Mで蛭名選手

覚

醒

陸上競技部



が6位入賞を皮切りに、磯崎選手が5位入賞をした。また、5000Mでは、県大会で初入賞したばかりの角選手が粘りに粘って健闘し、堂々の4位入賞を果たした。女子ではエース田中が3000Mで7位に入賞し、トラックレースに強い光星を印象付けた。

一方、県高校駅伝女子の部において、2区間でライバル校に競り勝ち区間賞を獲得。続いて出場した駅伝東北大会では7位に入賞するなど素晴らしい活躍をすることが出来た。

今後は、一層練習に励み光星高校陸上部の粘りを発揮し、頂点を狙って行きたい。



ほっ

と

たいむ

光星学院高校を卒業し拓殖大学商学部に進学した舘石盛行君（種市中学校卒）が1年生ながら箱根路に登場した。

舘石君は、在学中は明朗活潑な性格でキャプテンとしてチームを盛り立てる傍ら全国都道府県対抗駅伝競走大会（広島市）に青森県代表として出場するなど心身共に素質充分な人物であった。もちろん高校入学時からの夢は箱

根に出場することであった。4年あれば一度は出場をと大学に送り出したが1年生から走ることができたのには驚いた。拓殖大学の2日目往路の7区（小田原一平塚）の21.3km。箱根からの朝日を背にサングラスにオレンジのユニホーム、白のパンツ。胸にTの文字。出場者の中で一番小さい身長ながら鋭いピッチ走法で10秒後方の強豪順天堂大学・東海大学と競り合いを演じていた。

ゴール後満足行く走りが出来ずに悔し泣きをするシーンがテレビに放映されたが、各大学のOB・関係者の独特のプレッシャーと沿道での大歓声の中でしっかりと

自分のペース配分を固持して完走出来たことに拍手を送りたいと思う。

来年も箱根駅伝において卒業生の活躍と「青森 光星学院高校」というテレビのテロップを期待したい。



野辺地西高校

植林事業に参加しました ～青森県の植林はスギからヒバへ～

「青森県の木は何ですか」と聞かれて皆さんはわかるだろうか。答えは「ヒバ」である。植林の中心は現在「スギ」であるが、青森県の県木「ヒバ」を植林する計画が進められている。

その普及を目指すイベントとして、「県木あおりヒバ普及促進現地講習会」が、去る10月30日、野辺地町において開催された。

当日は朝から降った雨が残りぬかるんでいたが、県の関係者、野辺地西高校の生徒33名、馬門小学校35名の生徒が参加した。

最初にヒバについての講習会、次に植林作業の二部構成であった。講習会はヒバの特性や優位性、その管理についての勉強であった。植林作業は記念植樹の形である。

参加者は5名ずつのグループでヒバについての学習と植樹を行った。参加者の感想は「ヒバが病害虫に強いことを初めて知った」、「これから森にも関心を持つようになります」など、良い感触のものであった。

実際の作業では、植え込む作業になると、ふだんからグリーンベレーなど植林



に慣れている小学生が作業に手慣れており、高校生の方が不慣れな手つきというおもしろい光景もみられた。最後は全員で記念撮影を行って終了した。



収穫の秋にあわせたように、今年も恒例のあぎんど祭りが10月18日、19日の両日、野辺地町公民館で開催された。それは「産業祭りの野辺地版」の趣きである



が、その目玉が「チャレンジ・ショップ」（野辺地西高校と野辺地高校の2校参加）とである。

参加してすでに4年目を数えるが、売り場は主催者の配慮もあって比較的良好な場所をいただいている。今回の主力商品は、野菜各種とリングであった。天気に恵まれたことや、イベント（ホタテのクレーン釣り）が好評で、早い段階で商品売り終えた。

参加した生徒は生徒会役員とボランティア部員延べ19名が販売に当たった。生徒たちの感想は「商売って大変だとわかりました」、「接客が苦手だったけど、頑張りました」、「イベントがたくさんあって飽きませんでした」など様々であった。

今後も地域のイベントに積極的に参加して野辺地西をアピールしたいと関係者は考えている。

修学旅行の記録 ～沖縄と大阪への旅～



12月4日から12月8日までの5日間（4泊5日）の日程で、2学年修学旅行が行われた。（職員・生徒あわせて約100名）

事前に平和学習として「ひめゆりに関する映画を鑑賞し、沖縄への関心を深めて出発した。見学地の中にももちろんひめゆりの塔が入っているし、献花もあわせて平和学習が旅行の中心であった。

沖縄での初日、平和祈念公園、ひめゆりの塔（資料館）を訪れ、特にひめゆり資料館では、生き残った女性の実話の話を聞いた。「戦争の悲惨さ、怖さと平和の大切さを知った」と生徒たちは感想で述べている。その後は、日程通りに海洋博公園や首里城など沖縄の名所を回り、移動した大阪では「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン（U

SJ）で楽しんだ。ここでは、クリスマスシーズンの休日ということで、大変な混雑であったが、十分満喫したとの感想が多かった。

今回の修学旅行を通して、「また沖縄やUSJに行きたい」と感想に書く生徒が多く、また飛行機に乗るのが初めてだった生徒が多かったことも含めて、いろいろと思い出に残る貴重な経験を、生徒たちは積んだようである。



八戸短期大学附属幼稚園

P T A 活動 「星の子講座」

八戸短期大学附属幼稚園には「ひかりの会」というPTA活動の組織があります。今年は開園2年目になり、活動がしだいに活発になってきました。

今年度の活動を振り返り、参加した父母の方々の感想を紹介します。

○ 11月 串餅づくり講座：串餅はふだん何気なく食べているのに作ってみると作業は大変でした。

○ 11月 ヨガ教室：日常味わうことの無い静かな時間を体験しました。（日ごろの運動不足を痛感！）



○ 11月 リース作り：講師の方が持参した手作りクッキー、公園で拾ったどんぐりなどを飾ったクリスマスリースを作りました。エコの気分も味わいました。

○ 12月 料理教室：おせち料理を数品作りました。家族にこの一品をと気合が入りました。残った食材の皮できんぴらも作って「もったいない精神」を学びました。

○ 12月 フラワーアレンジメント教室：悪戦苦闘しながら個性あふれる作品を仕上げました。お花は食卓を華やかに彩ります。

今後、3月までに「ヨガ教室」「救命講習会」



と「マルヨ水産見学」の3つの活動が残っています。「ひかりの会」は毎回「賑やかに」「楽しく」活動を繰り返しています。



聖アンナ幼稚園

子どもの心にこたえる“保育者のセンス”を磨く

園内外での研修を必要と考え大事に実施している。「先生これやりた〜い」「これどうやるの？」全部やってほしいのではなく、“自分が一人で出来るように大人に手伝ってほしい”という子ども達の毎日の声に応える為である。よく小さい子が手伝われている方向が思い通り

でないと「ちがう！」と訴えわめいている光景をみかけるが我がままではなくやりたいのである。子ども自身が自分の行動の主体者になりたいのである。

教師は、知覚や知識の働きではなく、感覚、思慮、分別などのためにセンスを磨くことの必要性を講演会で再確認し共感した。自分自身の実践のあり方を時にじっくりと反省するなどの大切さを実感出来た。

モンテッソーリ教育での現場では、子どもを主とする「今何が必要なのか」という精神に自然と導いてくれるものがある。「子供に学びつつ教える」ということである。

成長は子どもの努力で進んで



研修「生命の歴史」



研修「西暦と紀元前の紹介」

いく。子ども自身が自発的に課題に取り組もうとすることが望ましい。それゆえ教師は教師自身が初心に戻り、普遍性のある成長発達の捉え方、環境構成など生きるために必要なこととして受け止める等提供の勉強会や教材作りはそういう私たち教師の思いが詰まっている。

びわの幼稚園

給食参観実施する

平成20年12月18日(木)、びわの幼稚園で給食参観が実施された。給食参観はこれまで開催されたことはなく、今回実施するに至ったきっかけは、10月24日(金)に行われた、PTA役員会の席上で是非、我が子の昼食の様子を参観したいという御父母の声を受け実施したもので、園では、星の子音楽会、お遊戯会、餅つき会など数多くの園行事に取り組む中、2学期中に御父母の希望を実現したく19日の終園日前日に設定しました。



参加の状況は年少組70.9%、年中組54.5%、年長組44.4%と小さな園児ほど御父母の参加率は高く「きちんと幼稚園で食べれているのかな？」の疑問を確認することが目的のようでした。

当日のメニューは、ご飯、ハンバーグ、温野菜、はんぺんスープ、ロールケーキで園児には人気のものでした。

上手に箸を使い食事をする園児、ぎこちなさが残る園児と、それぞれ個人差はあるものの、御父母の皆様は自宅での様子と、幼稚園での食事の様子を見比べ、デジタルカメラを片手に我が子の幼稚園での食事の様子を優しいまなざしで見守っておりました。

園児たちは、父母の視線を感じながら多少の緊張感を抱きつつも、よいところ



を見せようといつもより食事が進んでいたようですと担任の先生方のコメントがありました。

最後に、参加した御父母からは「念願がかない、ありがとうございました」などの声をいただき、びわの幼稚園での初めての給食参観が終了しました。

第二しなのめ幼稚園

豊かな時間をつくる



子どもたちの生活が忙しくなったといわれています。ドイツの児童文学作家ミヒャエルエンゲの名作「モモ」は、時間の大切さを私たちに考えさせてくれます。忙しい人間が増えることで子どもたちの遊びや賑わいが街から消えます。しかし一人の女の子モモの活躍で「時間」をとり戻した街には、再び子どもの遊びの姿が見られるというお話です。作者は、大人も子どもも、一人ひとりが豊かな時間を積み重ねていくことが生きる豊かさに繋がるということを語りかけています。

幼稚園の一日は、多様な時間と多彩な行事で成り立っています。その時と行事

の進行を私たちは、次のような配慮をして子どもたちと共有したいと整えています。

- ①心身ともに思いのままに心が動く雰囲気。
- ②子どもの主体的な活動を広げる場の設定
- ③子どもと共有しあえる体験の共有。
- ④子どもが自分の思いや、考えを話したり認められたり出来る場の拡大などです。

「幼稚園大好き。また明日も来るね。」

幼稚園でたっぷりと遊びこんだ子どもたちは、今日と同じく楽しいことが明日もあるのだという安心感を感じながら降園していきます。

行事を見まわしても「かけっこ負けない」と競い合う気持ちが芽生える運動会、さくらんぼ狩りや、かに採り、大根掘り、雪遊びなど季節を感じる体験。大きな会場で自慢の演奏発表の音楽会や言葉と、身体表現を通して、みんなが認め

てほめてくれる、自信を生むお遊戯会の発表。待ちに待ったクリスマス会など幼稚園の行事は、かけた時間を十分楽しむ機会を生むものです。

私たちは、人前でものおじせず自分の思いを表現出来る子どもを育てるために、一日、一週、一月、一年と、こつこつと継続し続ける事や、子どもと教師が、ゆったりとした心持で活動していく行事の山々を整えながら、「わかった喜び」「出来た達成感」を味わう豊かな環境と時間を充実させていきたいと考えています。



GAKUIN Human Relations

学院ヒューマンリレーションズ：光星学院につながる多方面で活躍している人たちのアドバイス・メッセージを紹介



果てしない
勉強が続いています。



わかまつ えみこ さん
若松 江美子 さん
日本習字若松教室支部長

1970年5月21日生
1991年3月八戸短期大学経営情報学科卒
日本習字教育財団教授
日本習字七段

若松江美子さんは、八戸短期大学経営情報学科を卒業後、トヨタカローラ八戸に就職、総務の仕事をごこなす傍ら書道家としての道も歩んでいた。その後、同社を円満退社し、現在は、幼い頃からの夢だった日本習字教室若松支部を開設、支部長として幼児から60代の人まで、幅広く硬筆や毛筆を指導している。



若松さんが書道の道に入ったのは、幼少の頃、近所に日本習字の書道教室があり、そこに小学生のお兄さんやお姉さんが通っていたのを見て、自分も習字がしたいと思ったのがきっかけ。その後、書道という芸術の魅力に惹かれ、いつかは自分で教室を持てたいと思い日々精進してきた。小学生の時には既に段位を取得。中学生の時には生徒八段まで段位を伸ばし、その後、書道の大会で知事賞など数々の賞を受賞。短大在学時には日本習字の指導ができる五段位を取得（現

在は日本習字七段）し、日本習字教育財団教授として認定されるまでに至った。

書道の道に入って30年以上、まだ自分で納得のいく【書】を書き上げたことがないという若松さん。自分が完璧と思う【書】を追及するため、まだまだ果てしない勉強が続いている。と笑顔で語りながらも芸術家としての片鱗を窺わせていた。

学生時代は、八戸短期大学経営情報学科3期生として在学し、主にコンピュータに関する知識や簿記会計学を学んだ。短大時代は、他県出身者の友人が多く、様々な話が聞けて楽しかったと話す。

プライベートでは、実家のご父母と共に暮らし、今のご主人と知り合い結婚。二人のお子さんを授かった。二人のお子さんも書道を習っており数々の賞に入賞している。

現在は主婦業の傍ら書道教室を運営し、八戸市内の各小中学校から依頼のある卒業証書や表彰状などの賞状書きや、地域の子供会のお手伝い、数々の書道大会の行事の役員として多忙な日々を過ごしている。

小学校の卒業アルバムに「将来の夢」に「習字の先生になりたい」と書いた若

松さん、現在はその夢が叶って、書道教室を開設している。

目標に向かって、頑張れば夢は叶うと思う。後輩の皆さんも夢に向かって頑張ってください。自分自身も、もっともっと勉強することがたくさんあるので、子供達に指導しながら頑張っていきたい。と後輩たちにメッセージを送ってくれた。



GAKUIN Activity

学院アクティビティ：チャレンジ精神で積極的に活動しているクラス・ゼミ・クラブを紹介

パソコンが身近に感じるようになった

八戸短期大学 馬場祥次ゼミ



でも自由で楽しいゼミと話す。

また、この馬場ゼミを通して、パソコンに触れる機会が増えたので、前よりパソコンを身近に感じるようになったし、パソコンの知識や操作の仕方も上達し、ホームページがどのようにして作られているかなどの構成、ホームページの製作過程で著作権などの法律的な知識も身についた。

パソコンのスキルアップに繋がるしゼミの活動で得た知識をこれからの生活や社会で役立てたいと今後の抱負も語っていた。

このホームページ制作は、来年度のゼミ生に引き継がれる。



八戸短期大学ライフデザイン学科の馬場祥次ゼミでは、来年度（2009年度）の附属幼稚園のホームページリニューアル制作の活動をしている。

馬場ゼミの構成人数は10名で、パソコンのスキルアップ及び地域とのコミュニケーションを目的としており、その最たる活動内容が、附属幼稚園のホームページ作りで、現在はそれぞれ4つのグループに分かれて、ホームページのコンテンツ作りに励んでいる。

ホームページ制作は、2008年の6月からホームページのプロトタイプ制作から取り掛かり、幼稚園での取材や写真の

収集をしながら、パソコンの操作やデザインなど、試行錯誤を繰り返して制作してきた。ゼミ生たちは、ホームページ制作は少し難しいが、パソコンの画面上に自分が作ったアイテムや文章が出てくるのが楽しい。と話す。現在は、季節によって雪を降らせたりトップページの充実を図ってきている。

ゼミ生は、カリキュラム上、なかなか活動時間が取れないのが現状であるが、ゼミ仲間がみんな明るく個性的で、と



コラム

スモールワールド現象

社会学上、有名な理論で「六次の隔たり理論」というものがあります。

これは、アメリカのハーバード大学教授、社会学者スタンレー・ミルグラムによって、研究がされた理論で、6次までの知人をつないでいけば、世界中すべての人と知り合いになれるという理論です。

直接の知人を1次、知人の知人を

2次、知人の知人の知人を3次…とした場合、6人を經由すれば、世界中の誰とでもつながることができる。

地球は小さな世界という認識です。

これがスモールワールド現象

このスモールワールド現象の結果に基づき作られたのが、インターネットサイトのSNS（ソーシャルネットワーク

サービス）です。

最近ではmixiなんかが有名ですね。

SNSは、ものすごいスピードで、口コミが広がります。なので昨今、このSNSを利用してビジネスを展開していくことが多いです。

ただ、諸刃の剣という危険性もありますが…。



星の子音楽会



八戸短期大学附属幼稚園



びわの幼稚園



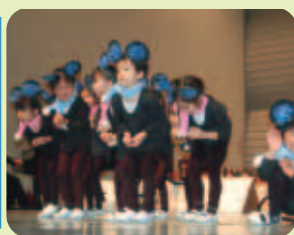
聖アンナ幼稚園



第二しののめ幼稚園



11月12日(木)八戸市公会堂で第28回光星学院「星の子音楽会」が開催された。「星の子音楽会」は、八戸短期大学の附属幼稚園4園が一堂に会し、互いの音楽教育の向上と、園児同士・保護者同士の交流を目的に実施されている毎年恒例の行事であり、今年も会場には、お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんなど園児達の家族がたくさん来場していただき、盛況になった。八戸短期大学ウィンドアンサンブルの演奏で4園の年長児が全員ステージに登場し、オープニングの歌を披露し開園した。そして、昨年から実施されている年中児のリトミック（表現）が披露され、続いて各幼稚園の年長児の歌と合奏などが行われた。会場からは、時折見せる園児達のコミカルな動きや表情に、温かい笑いや「かわいい」といった声が聞かれ、園児たちの一生懸命の歌や演奏にたくさんの拍手が送られていた。最後は、附属幼稚園の4園全教員と八戸短期大学幼児保育学科の学生によるコラボで「グロリア」「ハレルヤ」が大合唱され、フィナーレを飾った。



第12号表紙

春の甲子園大会出場決定の知らせを受けて
喜びを分かち合う光星学院高校野球部員

光星学院高校硬式野球部が、春の甲子園大会に3年ぶり4度目の出場が決定した。春の甲子園では、まだ勝利はないが、夏の甲子園でベスト4へ1回、ベスト8へ2回進出した実績がある。プロ野球選手も輩出。



学院キャンパスだより第12号

発行 学校法人光星学院

編集 学院広報編集委員会

〒031-8566 青森県八戸市美保野13-98

TEL 0178-30-1411

URL <http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>